**4月25日　READYFOR 代表取締役　米良　はるか　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

まずたった10歳しか変わらない同じ女性が自分のやりたいことを市場とマッチングしている事業をしていることに心底驚きました。何をやろうと思ったとしてもシリコンバレーに行って学ぼうと思ったり、起業しようと思ったりするのは実行力が素晴らしいと思いました。初めの「熱い思いのある人を手助けしたい」という考えをコアにしつつ、新しいアイデアや取り組みをしているのが新しいことをするのはいいという雰囲気作りにも繋がっているのでいい環境ができているのがすごいと感じます。特に「才能がある人が持っている責任で何かを生み出すのではない。何かしら強い気持ちがあれば始められる」という言葉に感激しました。私も自分なりに動いてみたいと感じたし、強い思いが何かを動かしていくと思いました。（経営学部　経営学科　1年）

レールにしかれた道を流れに任せて進むのは楽だが、そのまま大企業に埋もれていくのは怖い。初めはパラリンピックの選手を応援するという友達同士での思いつきでやったことが自分の将来に繋がっている。creative性を重視して米のシリコンバレーで学んだことを日本に帰国して実行していてとても尊敬します。仕事が誰かの夢の一歩に繫がるというのはとても素晴らしく、もっともっと発展していってほしいと思いました。キュレーターの方々も、誰かの夢のために全力をかけている姿を見て、かっこいい仕事をしていると思いました。「やりたいことを、やるに変える」この素晴らしい言葉を大切にしていきたいです。(経営学部　1年)

クラウドファンティングの名前は知っていたけれど、内容はしっかりとはわかっていなかった。自分の要望(お金を得て夢を叶えたい)と、ファンの要望がマッチするがゆえに、ファンは気持ちよく出資できるし、起業家はしっかりと基盤を持って事業ができるのだと思った。今は景気があまり良くないので、起業するのは難しいと思っていたけれど、このようなサービスがあれば、購入型を使い、返済のリスクや借金という重みがなくてすむため、たくさんの人が自分のやりたかったことを実現できる明るい未来になっていくと思った。何かを起こすには何らかのリスクを負わなければいけないと思っていたが、その考えが180度変わった。女性がバリバリ働くにはまだ難しい社会だと思っていたが、自分から何か行動すれば働き方や人生は変わるのだと思った。(経営学部　1年)

前回の山田敏夫氏もそうでしたが今回の米良はるか氏も、プラットフォーム化で成果をあげたものでした。（ビジネスモデルは後付けにすぎませんが）　価値を生み出すと聞くと、新たなものを創ると考えていたのですが、プラットフォーム化（新たなものと言えば新たなものなんですが）は今ある価値を発見し、増大させるという別の価値の生み出し方なんだと思いました。米良はるか氏の講義で価値の生み出し方にも方法が複数個あることも、話の本筋とは違いますが学ばさせていただきました。

パラリンピックのスキー団体への出資金が足りないということを聞いて、「おかしいな」と大学生の時に米良さんが思ったと聞いて驚きました。似たような話をニュースなどで聞いたことはありますが、「仕方ないよね」と思っていました。「おかしいから、この状況を変えたい。そのためにこうしよう。」とは思いつきませんでした。きっと、考えようとしていなかったんだと思います。自分の短所に気づけました。国や、一般人から普通にお金を募ることは難しくても、ネットを使えば、それにロマンや夢を感じる人がたくさん支援してくれるので、すごく効率的で、夢を与える仕事だと思いました。今まで、やりたくてもできなかったことを、どんどんできるようにしていくクラウドファンディングについて、もっと知りたいです。（経営学部　１年）

世間のお金の流れ、想いの伝搬というものをたくさんの事例を通して知ることができました。また人から人の流れを企業から地方へ、色々な種類の流れに広げていくその思考が自分にとってとても貴重でした。0から1を生み出せば1から100までは無限の可能性があるんだというように聞こえました。また面白かったのはお金の流れに想い＝愛を乗せていくこと。お金をfundする目的が必ずしも個人の利益だけではないというところにまた魅力を感じました。そして、プロジェクトの充実の裏には挑戦であったりDuelがあったりするものなのだなと思いました。個人的に印象的だったのは「やりたい気持ちをやる決意にする」です。(教育人間科学部　学校教育学科　3年)

今日のお話の中で私は「夢の一歩を手伝う」という言葉が印象に残りました。大学生で新井監督に出会うまで特にやりたいことはなかったとおっしゃっていましたが、他人の夢の一歩を手伝うという難しい事業を様々なきっかけ、ヒントから、やりたいこととして実行した米良さんは、日本で初めてクラウドファンディングの企業を設立された点で、やはりクリエイターであると私は思いました。ですが、それはクリエイターであるとの意識がなくても、社会に求められることと、やりたいことが一致するなら誰もが新しい事業を始める可能性を秘めているのではないかと思い、「やりたい」ことを「やる」ということの重要さを感じました。国の税金でなく、ネット上で皆が思いを持って支え合い、より多くの夢が実現される社会は、より多くの笑顔、幸福を生み出せると思います。まだクラウドファンディングを知らない日本人は多くいると思うので、このように素晴らしいシステムがもっと広まればいいと思いました。（経営学部 経営学科 1年）

まず、米良さんが最初に言っていた小さい時から夢や、やりたいことがなく、自分にクリエイティブな才能はないと思っていたと言っていたのにすごく共感しました。自分は現在進行形でそう思っています。だからこそ米良さんはクラウドファンディングをやりたいと思ったのだろうと思います。私みたいに夢を持っていない人は夢や目標を持っている人をすごく尊敬しています。だからそんな人を応援したい、というのも分かるし、そこが自分の居場所だと感じるのも分かります。私はクラウドファンディングの意味を今日初めて知りましたが、今日1日でかなり興味を持ちました。いままで自分はボランティアのようなものには、ほとんど関心はなかったのですが、人を助けてあげるというよりも、人と一緒に夢を追うというように考えると、ワクワクしてきました。（経営学部 経営学科 1年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

今回の講義を聞いて、これから私がもし起業してみたいけど、どうしようか迷ってしまった時は、今日の講義のことを思い出してやりたいと思ったらチャレンジしてみようと思いました。また、起業するときの方法の１つとして、クラウドファンディングの仕組みもあるんだと知れて良かったです。今度、実際にReadyforのサイトを見て応援してみたい企業などを探したいです。（経営学部 経営学科 1年）

やりたい事が思い浮かんだら、行動に移すということです。自分の持っている理想や夢を少しでも実現に近づけるために、何をやりたいかの明確化、それを達成するためにまず何が必要で何を学ぶ必要があるのか。どんどん具体化して、今の自分にできる事から取り組んでいきたいと思います。天才的な能力を先天的に持ってる人間というのは生まれているのに、アフリカ等生存率の低い地域でそのような人が埋もれてしまう。また、能力のある子供が力を発揮できるような環境が足りない。科学技術の進歩した現代でもまだまだこのようなことが起きているという現状を変えたいと思います。視野を広く、グローバルに。人間を思いやるという気持ちは世界共通だと思うので、その思いを形にできる仕組みを私も作りたいなと思います。また、運命的な出会いをできるよう、積極的に多方面でのコミュニケーションを築いていきたいと思います。（経営学部　経営学科　一年）

私は、地域活性のサークルでゆるキャラをつくっています。地域活性のため、その地域のイベントに参加し運営を手伝ったり、イベントを企画したりしています。しかし、TwitterなどのSNSはやっているものの、まだまだ知名度は低く、地元の人々に愛されるキャラ、で止まっています。「クラウドファンディング」ではないですが、もっとインターネットを用いたり、地元の人々のネットワークに参入して「応援したい」と思われるような活動をしたいと思いました。（理工学部　化学・生命系学科　３年）

「自分の夢がなくても、誰かの夢を応援することが夢につながる」この言葉は夢を持たなくなった私に何かチャンスをあたえてくれるような言葉だなと思いました。誰かの熱意に一度巻きこまれてみようと思いました。（経営学部　経営学科　1年）

**授業スタッフの感想**

今回も多種多様な感想を見ることができて、いろいろと参考になりました。

米良さんの講義や質問に対する答えを聞いていて思ったことは、先週の山田氏がお話しされたことと共通する内容が多いということでした。「まだ成長できる」や「モデルからは学べない」など、起業家としての姿勢はある程度定まってくることが分かりました。今後の講義でも様々な経営者のお話を聞き、経営者としての精神を学んでいきたいです。

レールに敷かれた道を歩みたくないと誰もが思いながらも、そのレールをなぞっていく人が多い中、米良さんのように確かな意思で自分の道を突き進む人は素晴らしく、とても憧れました。アンケートを読んでいると、私と同じように感じている人も少なくなく、この気持ちを4年間忘れず学び続けられればいいなと思いました。